

平成23年度 新人研修プログラム

1 年間を通した研修プログラム

～はじめの半年はしっかりと、後半は個人の能力に合わせて～

期間毎の目標や、重点的に取り組む内容などを設定しています。

自己評価や他者評価、定期的な面談を行い、個々の新入職員が自身の成長を確認し、目的を持って研修に取り組めるように配慮しています。

2 先輩が相談を受ける制度（共診制度）

臨床実習を経験したとしても、患者さんを担当していくのは、わからないことも多く不安なものです。誰に聞けばいいかもわからないかもしれません。

そのため、困った時にはすぐに相談できるような環境、共診制度を設けています。患者さん毎に相談する先輩を決めており、評価から治療計画立案、日々のプログラムなどの相談に対応します。

介助の方法やコツも日々の相談の中から身につけていく事が出来ます。

患者さんの治療を通して教えてもらえるので、すぐに実践に活かせます。

症例ごとに共診者が違うので、いろんな先輩に教えてもらう事が出来ます。

3 業務指導担当制度

課内での役割や患者さんの診療にいたるまで、多くの仕事があります。

当院では、業務指導担当者がチェックリストを活用し、指導の漏れがないように配慮しています。

また、いろんな仕事を時間内に行うにはコツが必要です。時間の上手な使い方も一緒に考えていきます。

4 症例検討会

紙面にまとめ、発表する事で、他者への伝達力やプレゼンテーション能力を高めます。

多くの先輩の意見を聞く事が出来、新たな視点を養う事が出来ます。

5 豊富な勉強会

課内の勉強会*は、興味のある勉強会に自由に参加する事が出来ます。

医師による講義も企画しています。

自分達がわからない事を自分達で学ぶ、新人主体の勉強会も企画しています。

平成 23 年度 定例勉強会テーマ

①H23 年度 リハビリ課 定例勉強会テーマ

■ PT：数名のグループでテーマや講義内容を決め開催しています

呼吸リハビリテーション（呼吸介助実技練習）
検査データやフィジカルアセスメントから全体像を把握する
上肢に対する関節可動域練習
外科手術前・後のアプローチについて
基礎知識の再確認・再学習（解剖学・運動学）
嚥下機能の基礎、S Tとの関わり方・ポジショニング
足浴の効果、実技
神経系理学療法伝達講習会 など

■ OT：月ごとに持ち回りで、各自がテーマを選択し講義を行います

姿勢について 身体障害者手帳・精神福祉手帳について
透析について 成年後見制度について
高次脳機能障害について 園芸療法について
学会伝達（手のかたち・手のうごきについて） など

■ ST：月ごとに持ち回りで、各自がテーマを選択し講義を行います

全失語の言語治療
吸引手技のポイントとリスク管理
日本神経心理学総会、高次脳機能障害学会伝達講習
リハビリ中の安全管理について など

②医師による講義

H 2 3 年 4 月から、従来の先生方の講義に加え
整形外科 小雲先生の講義が加わります。
肩の手術、術前後のリハ、機能解剖などを予定しています。